慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	カブールの後半生
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.3, No.4 (1910. 4) ,p.490(124)- 502(136)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100415-0124

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の刺戟となる。同一運動の反覆は此理由から起る其次に來る恍惚的失神的狀態は如斯き反復活動の必然結果である。

かく見來れば吾人が前に一寸暗示した移傳的衝動を藉らずに全然生理的に遊戯の主要ある性質を説明し去り得るが如くに思はれる。實際またグロウス氏が新説を唱ふる迄は此れ以上に包括的な説明はなかつたのである。勿論以上の説明は遊戯説の上に貢獻して居るには相違ないが、既に見る如く以上の諸原理は一の系統をなすものではなく唯だ無理に繋ぎ合はしたものに過ぎぬから之を以て最上の説明とすることは物足らぬ感じがする。翻て吾人は未だ學校に出られぬ樣な小さい兒童の遊戯を見ると、此中に全問題の要點が潜んで居りはしないかと思はれる。如斯き時代の數年間の生活は全く遊戯より外に何ものもない。卽ち秩序ある教育を受くる前の兒童の全生活は飲食、睡眠の時間を除くの外は全く遊戯を以て占められてゐる。換言すれば小兒の全身心の精力は遊戯にのみ傾注されて居る。如斯を驚異すべき意義なる現象をば生理説のみで説き去る事は餘りに大膽過ぎはしないか。如斯く遊戯といふものが生命の始源と生活の現實とに密に近接して居るといふ事實を見ては從來の生理學的説明は假令遊戯説の上に少なからざる光明を與へてはゐるものゝ之を以て遊戯の本質を指摘せんとするにはあまり負擔が重過ぎる。吾人は更に老幼を問はず一切の遊戯悉くに適用せらるゝ一層普遍的な原理を覓めなければならぬ。前に擧げた第三説卽ち豫備説は之に應へんが爲に生じたものである。此説は動物の衝動又は動向に遊戯の起源を覓めんとするものであるから遊戯の生物學的研究といふべきものである。更に稿を更めて之を説明する。（未完）

カヴールの後半生

高橋誠一郎

（七）ヴィラフランカ（Villafranca）

「墳墓は發かれたり、死者は蘇れり。愛國の士は戰線に立てり、利劍を手にし桂冠を戴き、彼等の胸は唯だ伊太利の名に依りて燃えたり」。詩人は歌へり、兵士は起てり。「余は爾等が元帥なり、爾等の勇敢と節義とは前王の朝に於て、業に能く之を知れり、況んや爾等と肩を比べて、チエルナヤに戰ひし佛蘭西の大兵は今や來りて吾が軍を援けんとす、必勝を期して進め、半島の民衆は簞食壺漿して爾等を迎へ、爾等が三色の旗は忽ちにして全伊太利を風靡せん」の勅諭は雷の如くに國内に響渡れり。

墺太利の軍隊組織は憐む可く時勢に後れたり。行動は遲鈍なり、軍略は粗漏なり。加ふるに伊太利の革命軍をして鬼神の如く震駭せしめたる老將軍ラデツキーは昨年九十一の高齡を以て逝き、其後を襲ふものは凡庸無能なるギウライ（Gyulai）伯なるに於てをや。一擧にしてピスモン全土を侵略し盡す可しと誇稱したる墺軍が一敗二敗、終にマゲンタ（Magenta）の野に死傷一萬五千、捕虜五千、而して大砲四門、小銃一萬二千、函囊三萬を遺棄して去れるもの亦偶然にあらざるなり。

六月四日マゲンタの戰後更に四日を隔てゝミラン（Milan）は占領せられり。卽日佛帝は檄を飛ばして人民を鼓舞せり。「協力せよ、一致せよ、卿等は須く祖國の獨立の爲めに銃を執つてヴイクトリヤ エマヌエル王の麾下に集れ。今日に於ては唯だ宜しく兵士たれ、然らば明日は卽ち自由の一大國民たらんなり」。佛帝は得意の極、吾を忘れて大聲に呼號せり。然れども彼は間もなく自己の發したる叫聲の反響が餘りに强大なるに驚きて思はず其耳を蔽はざるを得ざりき。革命は各地に蜂起し、舊政府は破壞せられ、餘焔は延きて彼の最も氣遣へる法王領にも及ばんとす。次で來れる六月二十四日のソルフエリノー（Solferino）の戰も亦皇帝フランシス、ヨセフ（Francis Joseph）が躬自ら軍を督勵したる甲斐もなく終にキエセ河の青嵐に涙を揮つて退軍し、孤軍蕭々ミンシヨ（Mincio）河を渉り四方城（Quadrilateral）を護つて又出でず。

戰愈よ利にして憂、愈よ多きものはナポレヨン三世なり。彼はカヴイヲナ(Caviana)に勝利の旗印を打樹てし時も、前夜墺帝が營みし室を占領して一夜の宿となしたる其最得意の時に於ても彼の面には暮れやらぬ憂の雲の掛れるを見たり。伊太利全土は彼を救世主として仰ぎたり。彼の到る所には皆歡呼の聲沸き、煙花の響耳を聾せんとす。然れども彼は此伊太利人民狂喜の樣を冷かに見やりつゝ倏然として其姿を消せり。而して彼が再び伊太利軍隊の前に顯るゝに先ちて、忽然として表れ來りたるものはウイラフランカ(Villabrncra)の假條約なりき。

ナポレヨン三世が當初の目的は彼が屢々言明したるが如くロンバルデー及びベネチヤを墺の手より救ひ「伊太利をしてアルプスよりアドリアチックに至るまで自由ならめん」とするにありき、然るに彼は其目的の半をも達せざるに、卒然其同盟國にも、其臣僚にも何等謀る所なくして書を墺帝フランシス ジヨセフに送り七月八日休戰の約なり、越て七月十日密に墺太利帝とビラフランカに小說的會見をなして媾和の假條約に調印するに至りしなり。抑も彼をして此擧に出でしめたる動機は那邊に在りしや。吾人之を算へて三を得たり。彼は第一にピエモンの成功餘りに速かなるに一驚を喫したるなりき。餘りに強大なる伊太利は餘りに強大なる墺太利と等しく決して彼の望む所にあらざりしなり。第二に彼は戰場の凄慘たる光景に心を動かせるなり。同盟軍は勝利を得たりと雖も然も尙ほ一萬七千の生靈を失へり。累々たる伏屍は幾日となく夏の烈日に曝されて汚臭殆ど鼻を奪はんとす。此慘憺たる光景を現し、此危險を冒して而して彼の贏ち得る所のものは何ぞや、唯だ一片の名譽と僅にサボイ及びニースに過ぎざるにあらずや。而して第三に彼の心を動したるものは獨逸諸邦の行動にありとなす。普魯西は果して墺太利を助けて戰爭に加入するの用意をなしたるや、頗る疑問なりと雖も、唯だ其兵をライン(Rhein)方面に出して他の聯邦を叫合し以て佛蘭西を威嚇

し、其間に處して武裝的調停をなさんとせるは事實なり。『ナポレ三世は獨逸の威迫を聞けり。彼は數日を出でずして一はライン方面に於て一はベネチヤに於て戰はざることを保するを能はざりき。彼は夏日の遠征に倦み疲れたり。算を亂して横はれる死傷は最も彼の心を動かせり。殊に彼は自ら楫し來りたる伊太利革命の潮流が滔々として止まる所なきを見て、遂には伊太利をして其統一を完成せしめざるを得ざるに至る可きを想ひ、且つ北部伊太利王國の建設のみを以て止まるとするも尙ほ羅馬法王が俗界の權力を犧牲とせざる可らざるなり。斯くの如くにして佛國も將た全歐も悉く新なる戰報を聞かんとするの時、意外にもナポレヨン三世が墺帝と會見し、平和はビラフランカに於て兩者の間に締結せられたりとの報に接したるなり』とソラン(Sorin)が謂ひたるは最も好く這般の消息を傳へたるものなり。

ナポレオンは此假條約に關して二個の罪惡を犯したり。第一は彼が戰爭開始の當時に於て聲明したる約束を履行せざりしことなり。第二に彼は其同盟者たるヴイトリヨエマヌエルに對して此平和談判に與るの權を得せしめざりしことなり。此等二點に關しナポレオン三世に對する非難は素より免れ難き所なり、然れども他方より觀れば彼が如きは先見あり、確信あり、一定の主義主張に依つて行動するものにあらずして、唯だ漠然たる空想と、周圍の事物の導くに任せて漂浪しつゝあるものなり。此薄志の徒に向て敢て多を望むは、寧ろ望むもの非なるに似たり。

七月十一日ヴイラフランカに於て調印せられたる平和假條約の內容はそも如何なるものなりしか。

(一)佛墺兩主權者は伊太利聯邦の組織を援助すべきものなり。

(二)聯邦は羅馬法王を名譽首長(Honorasry presidency)となし、其下に置かる可きものなり。

(三)墺太利皇帝はペシエラ(Peschiera)及びマンツア(Mantua)を除く外ロンバルデー全部に於ける

權利を佛帝に讓るべし。

(四)ベニスは伊太利聯邦の一部を形成す可きものとす。但し此に對する墺帝の權利を認むること從前の如くなるべし。

(五)タスカニー(Tuscany)大公及びモデナ(Modena)公は從前の位置に歸り、廣く大赦を行ふべし。

(六)兩國皇帝は法王に對し、其領内に必要と認むべき改革を行ふべきことを要求すべし。

(七)兩交戰國間の戰爭に關する最近の事變に依り罪を得たるもの全部に對し、充分なる且つ一般に渉りたる大赦を行ふべし。

と謂ふにありき。吾人をして更に佛人ソランの所説を引用せしめよ。『斯の如く曖昧なる基礎の下に締結せられたる平和は何人をも滿足せしめざりき。伊太利半島は其開戰前の如く依然として不滿足の狀態に在り。ナポレヲンはロンバルジーを釋放せり、然れども彼は伊太利民族統一の目的を拋棄せり。彼が外交は斯くして最も至難なる迷宮の内に彷ひ行きぬ。十一年の後彼が其舊同盟國に援を求めたる時、彼の同盟國が執れる態度は實に彼の運命に致命の大打擊を與へたるなりき。』

ピエモン王は自己に何等の交渉をも經ざる此不條理極まれる平和條約に屈げて同意せざるを得ざるなり。カヴールは之を聞きて直ちに會議場に急驅せり。然れども時既に遲かりき、エマヌエルもカヴールも最早如何ともする能はざるなり。宰相は一時激怒の餘りに王を叱責せり。王は默して唯だ暗涙に咽ぶのみ。語盡きてカヴールは深く身を椅子に落して恰も失神せるものゝ如くなりき。彼はチューリンに歸るや否や直ちに形骸を乞ふて、閣友ラタジーに後事を託し飄然として七月十三日を以て國を去る。其胸中果して如何。

(八) ツーリッヒ(Zurich)確定條約

然りと雖も伊太利統一の前途は決して暗黑にはあらざりき。カヴールが意志は一蹉跌、一頓挫毎に其堅さを加ふるなり。彼は七月下旬フローレンス(Florence)モデナ(Modena)ボロニアの民衆を

煽動して假政府を立てしめ、外觀上は尚ほ獨立して、事實上ピエモン政府の指揮を奉じ、機を見て之に合せしめんとせるなり。佛帝は一八一五年維也納會議に於て決せられたる伊太利に關する事項に就き、訂正を加ふる必要ありとなし、其慣用手段なる列國會議談を提出せり。英吉利は最早親墺排伊の意見を有したる保守内閣を戴くものにあらず。時の外相ジョン ラッセル(John Russel)は此列國會議説に贊する以前に二個の條件を附せり、曰く(一)佛墺二國の兵は法王領より撤兵し、二國は爾來永遠伊太利半島に對して干渉を試みざることを誓ふべし、(二)中央伊太利の人民自ら其國事を處斷するの權利を有するものなるを承諾すべしと。ピエモンは今や佛を失うて英を得たり。無官無職の一愛國者となれる彼れカヴールは英國の此宣言によりて百萬の援兵を得たらん心地をなせり。彼は好機逸す可らずとなしタスカニー、エミリー、ボロニアの人民を勸誘して、八月十六日より四月二十日に亘り普通投票を以てピエモンに合併することを議決せしめたり。ナポレオンは正に己れのなへる繩を以て己れを縛するものなり。彼はロンバルジーの平原に未だ駐屯しつゝある六萬の大兵を以て、其數箇月以前まで援助を與へつゝありし革命の趨勢を鎭壓する能はざるは勿論なり。然れども同時に亦袖手して之を傍觀せんか彼は明にヴィラフランカ條約に對して不忠實なるものなり。彼が矛盾せる行爲は終に彼をして此デレンマに立たしめたり。九月に至つてフローレンス、ボルニア、モデナの三政府合同してモデナを以て其共同の首府となし、ニースの大俠客ガリバルジーに其新募の兵を督せしめぬ。羅馬法王は激憤の極、時勢遲れのピエモン王破門を宣告し墺太利と其與國とは急に兵を整へて之を威嚇せんとせり。法王、墺帝、頑冥君主、對、ピエモン、革命政府、義勇兵。中央伊太利の形勢頗る不穩なり。

此危急の時、危急の日、佛蘭西、墺太利及びピエモンの全權は悠々瑞西國ツーリッヒ(Zurich)に會して空々二箇月の日子を費してヴィラフランカ

の條約を確定せしめたり。(十一月十日)。會議半にして佛帝は五十九年十月二十日の日附を以てヴィトリヲ エマヌスルに一書を寄せたり。「ヴィアフランカ平和條約の締結に際し余の行動の利非得失を知るは問題にあらず、問題は懸りて該條約より伊太利の平和、歐羅巴の休養の爲めに最も有利なる結果を得るに在り。媾和の當時に在りては、可及的伊太利の獨立を確保し、ピエモン及び人民の渇望を滿足せしめ、然も之と同時に歐洲全般に影響する所大なる彼のカソリック教徒並に諸君主を毀傷する所なき條約を締結するの必要ありしなり。而して余は信ず、墺太利皇帝にして此重大なる結果に到達せんが爲めに余と親善なる關係に立ち相互卒直に其意思の疏通を計らんか、敵視反對の原因は消滅し、斯くて伊太利の復活統一の業は平和なる合意の裡に成りて再び流血の慘事を行ふの必要なかる可し。余の思惟する所に由れば斯くの如きは實に伊太利復活統一の主要なる條件なり。伊太利は聯邦組織の下に結合せられたる數個の獨立諸州を以て成立し、各州は孰れも自州の憲法を制定し又は有利なる改革を行ふの權を留保す可し。斯くて聯邦は伊太利民族統一の原則を尊重し、單一の國旗、單一の關稅制度及び單一の幣制を有す可きものなり。中央政府は之を羅馬に置き、兩院の進言に基き各州主權者の任命せる代表者を以て成立せらる可きなり。次に羅馬法王を名譽首長と戴き以て歐洲に於ける舊教徒の宗教的情操を滿足せしめ、法王の精神界に於ける權力を增大せしめ而して吾人は彼をして人民の正統なる要求に從ひ讓步するを得せしむ可きなり」云々と。

然れども ナポレオンが苦心も今は何等の効果を奏すべしとも見えず、革命の猛火は炎々として天に沖せり。ツーリッヒ一片の條約文は忽ちにして此猛火の燒き盡す所となりて其痕跡を止めざるに至りぬ。請ふ伊太利の愛國者が叫ぶ所を聽け。リカソリー(Ricasoli)曾て其同胞に與へて曰く「吾人は最早ピエモンを謂ふ可らず、フローレンスを

謂ふべからず、タスカニーを謂ふ可らず、吾人は融和を說く可らず、合併を說く可らず、只だ須くヴイットリヲ エニヌエルの立憲政府の下に全伊太利の人民を統一せしめざる可らず。吾人の渇望する所のものは唯だ伊太利の統一及び强大あるのみ」と。嗚呼此の如きは實に伊太利二千萬の叫聲なりしなり。

猶の眼球の如く、秋の空の如きものはナポレオン三世が外交なり。彼が伊太利に對する方略は茲に至つて三轉せり。彼は墺太利及びピエモンの間に介して、共に其感情を害はんよりは、寧ろ利に着きてピエモンを助け、中央伊太利の合併を許し、而して之れが對價としてサヴオイ及びニースを割讓せしめんと欲するに至りき。

時に「法王及び列國會議」("Le Pape et le Congrès")なる小冊子巴里に表る。此書が佛帝の意を受けて著はされしものなることは殆ど公然の秘密として一般に知れ渡りたり。此書論ずる所は蓋し法王をして其領土を拋棄せしめ其政權の及ぶ所は唯だ羅馬府に限らしむべし、是れ卽ち伊太利の治安を保つ所以なりと謂ふにありき。十二月三十一日法王パイアス九世亦之と同意義の通牒を佛帝より受けたり。熱心にピエモンとの同盟に反對したる外相ワルスウスキーは其職を免せられ、親伊黨のツーヴネルは新に擧げられて外相となる。歐洲は彼が態度の豹變甚しきに一驚を喫したりき。

暫く局外に立たざるを得ざりし吾がカヴールが再び中央政府に入るの時は來れり。久しく中央伊太利の合併を斷行するに躊躇し、ニース及びサヴオイを佛に割くを好まざりしラタジーは首相の職を下り、一月二十日カヴール其後を受けて首相の職に就けり。實に其挂冠後六箇月なりき。彼の行動はあくまでも活潑々地なり。同月二十七日新議會を召集するに當り、窃にピエモン憲法は其適用範圍を中央伊太利まで擴張したるを示し、中央各州共に代議士を選出すべきを命じたり。

二月三日佛帝は佛國議會開院式に臨みてピエモンにして若し中央伊太利を合併せば佛國は必ずア

ルプス方面の境界を改正すべきものなりと公言して、其意の存する所をほのめかしたり。愈よサボオイ及びニースは割讓せられんとす。是れ固より佛帝をして中央伊太利合併を黙認せしむる對價として已むを得ざるものなりと雖も、サボイは實にピエモン王家發祥の本地、ニースは大憂國家にして此れ亦伊太利建國者の一人たるガリバルジーを產したるの地なり、其割讓は必ずや最も大なる反對に遭遇せざるを得ざりしなり。然れ共カヴールは此際に處して最も巧妙なる手腕を振ひたり。彼は此割讓たる佛帝の迫る所となりて已むなく之に屈從したるの狀を一般に知らしめんとせり。小策に敏にして大局に迂愚なるナポレオンは忽ちにして彼れが藥籠中のものとなれり。二月二十四日彼は公然書をピエモン政府に致して、ピエモンは其合併をパルマ、モデナ、法王領の諸州に止め、タスカニー大公をして其舊位に復せしめんことを要求し、若し容るゝなくんば佛蘭西は大に決する所あるべしとの通牒を發せり。カヴール之に答へて曰く、「貴國の議にして昨年八月に於て提出せられんか或は之を容るゝを得しならん、然れども今や既に其時機は去れり。ルーマニヤは既に八箇月間自治を執れり。民意の自由を尊重する佛國皇帝は必ずや彼等が普通投票によりて自ら處決する所に容認せらるべきなり（佛帝は普通投票によりて帝位に卽けるもの）。タスカニー亦敢て舊主の統治を甘受せざるべし。卽ち中央伊太利の人民にして其普通投票によりヴイクトリオ　エマヌエルに統治權を捧げんとならば宜しく之を許容すべし、而して又他方に於てニース及びサヴオイの二州民にして等しく普通投票により佛國に合併せんとするの決意を表示せば其合併は卽ち正當なるものなるなり」と。次でカヴールは英國を誘ひて二州合併を列國會議に附するの議を提出せり、佛は之に對して中央伊太利をピエモンに合することをも亦列國會議に附せんと主張せり。然も列國會議に附するは卽ち合併を困難ならしむる所以なれば彼は終に列國會議開設の提案を撤回せり。これ固よりカヴ

ールが演出せる一場の戲技のみ。タスカニー、パルマ、モデナ、エミリヤ皆三月十一、二日の投票によりてヴイクトリヲ　エマヌエルを戴きて君主となす。ピエモン議會之を承認す。

ザヴオイ及びニース愈よ引渡されんとしてカヴールは愈よ踟躕の狀を裝へり。ナポレオンは特使ペネデッチをチユリンに派して二州の割讓を强要せり。カヴールは機熟せりと見て、漸くエマヌエル王を動かして二州讓渡の條約に調印したり。時にカーヴル佛蘭西の全權委員に對して薄氣味惡るき微笑を湛へつゝ「扨て彌よ貴國は吾が共犯者となれり」（„Now, you are our accomplies"）てふ意味深長なる一言を漏せり。四月二日新議會開設せられパルマ、モデナ、ローマニヤ、タスカニー等の選出せる議員皆參列し、同十二日を以て二州割讓條約は三十二票に對する二百二十九票を以て可決せられ、次で同十五日より二十二日に亘る二州人民の普通投票によりて、二州は遂に佛國に合併せられたり。其夕サボイの一市民傍人に談つて曰く「吾人は羊の如く賣られたり」と。

二州割讓のことを聞きたるガリバルジーは眞に怒髮天を突くの概ありき。彼はカヴールを罵つて、「犬なり、狐なり。咄、卑劣漢、吾人は須く其面に唾すべし」と叫びたり。カヴールは獨り書齋の裡に默想に耽りつゝ、往々沈痛骨を刺すが如き語氣を以て沈吟せり。「我名死し、我が名譽は地に墜つるとも、伊太利にして存立せば足れり。」

（九）カヴール逝く

北部及び中央伊太利は殆ど全く統一せり。ピエモンは更に南伊太利を併せざる可らず。然れども吾人は此に其經過を詳述する能はず。蓋し伊太利統一史中の此部分はガリバルジー主にして吾が主人公カヴールはこれに客たるの觀なればなり。兩シヽリーを征服したるは實にガリバルジーの功なり。十九世紀の最大俠客が最も能く其面目を發揮し得たるは此時にあり。

一八六〇年五月六日ガリバルジーはクリスピー（Crissi）の說くに應じて Lombardia, Piemonte と號

する舊式の老朽船に一千二百の有名なる義勇兵"The Thousand"を滿乘せしめて、ラガンチア(Sa Gancia)の警鐘によりて蜂起したるシヽリーの革命を助けんとて勇ましくジネノア(Genoa)を出發せり。カヴール以爲く「事破れなば罪ガリバルジーにあり、事成らば功ヴイットリヲ エマヌエルに在り」と。斯くて彼は提督ペルサノ(Persano)に親しく意を含めて曰く「御身は宜しくガリバルジーとネープルス軍との間を通過すべし。請ふ能く吾が意を諒せよ」と。而してペルサノは發するに臨みて曰く「若し事急ならば余をフエネストレルラ(Fenestrella)の獄に下せ」と。洵にピエモンは此空前の壯擧を拍手しつゝ傍觀すること能はざるの苦境に在り。カヴールは佛に對し墺に對しガリバルジーを制するを裝ふて然も之を助けざる可らざるなり。ケプレナの吼獅は往くとして可ならざるなし。全島皆彼の脚下に來り集りぬ。ネープルス王震駭、急に施政の方針を變じ警視總監アイオッサ(Aiossa)を免官し、サン、エルモ(Sam Elmo)城頭に三色旗を掲げたるも時已に遲かりき。カヴールは密に其意を駐ネープルス公使ヴイラマリナ(Villamarina)に傳へてネープルス内に革命を起さしめんとし、策成らざりしと雖も、"Italy and Victor Emmanuel"の叫聲は到る所に聞へたり。

列强は素よりピエモン及びカリバルジーの態度を非難せりと雖も、敢て自ら事を釀さんとするものなし。英吉利は深き同情をピエモンに寄せ、ラッセル卿は書を各國使臣に廻附して伊太利をして其邦内に起りたる一切の事變を自ら處理せしむるの權利を認む可きことを主張したり。カリバルジーは此光榮ある征服の前途に何等の障害をも認めざりき。彼は終に八月十九日の夜、海峽を渡りてメリトー(Melito)に上陸し、九月六日彼は王を逐うてネープルスに入れり。市民は狂喜して大俠客を迎えたり。

得意に乘じたるガリバルジーは更に法王領に攻め入らんとする態度を取れり。危機目睫の間にあり。カヴールの苦心は眞に文筆の盡す所にあらず、一方に於ては佛帝を說き、列國を說きて、伊太利の革命を鎭壓して歐洲の平和を維持せしめんとせば、ピエモンの兵力によるにあらざれば能はざるを示し、他方に於ては神速に出師を斷行して、墺太利の動兵をなす暇を與へざらんとせり。單純なるナポレオンの頭腦は此複雜なる問難に際して殆ど混亂せんとす。彼は成る可く此問題より遠ざからんとし「唯だ速に事を斷せよ」の一言を遺してアルゼリー巡廻の途に上れり。

カヴール乃ちヴイクトリヲ エマヌエルを元帥として南征せしめ、先づ法王領に兵を進め、民意を保護するを名としてシアルジニー及びデラ、ロカ(Cialdini and Della Rocca)に命じて十一日マルケス、ウムブリア(Marches Umbria)を侵し、海陸相呼應してアンコナ(Ancona)を圍み、二十六日之を陷れ、エマヌエル王は更に命を下してネープルスに兵を進めたり。好漢ガリバルジーは莞爾としてヴイクトリヲ エマヌエル王をテアノ(Teano)スペランザノー(Speranzano)の間に迎えたり。大俠客は靜に帽を脫して「伊太利王」と叫びぬ。王は彼が手を握つて無言の涙に無限の感謝を表せり。斯くの如くにして小爭鬪の後ネープルス王國全く平ぎぬ。十一月二十七日エマヌエル王入京の後、僅に二日にしてガリバルジーは全軍全土を王に獻じ、孤影飄然、カプレナ(Caprena)に向つて歸り去れり。

第一回全伊太利議會は一八六二年二月十八日チューリンに開かれたり。ルジエロ、セチモ(Ruggero Settimo)は元老院議長にラタジーは代議院議長に各々選任せられ、三月十四日王の生誕日を以て議會は滿場一致、ピエモン王ヴイクトリヲ エマヌエルの頭上に伊太利王の新尊稱を捧げ、十七日王は之を裁可せり。

新王國は尙ほ其境界に於て、二つの遺憾を忍ばざるを得ざりき。一はベネチヤ、一は羅馬なりき。然れども此等は軈て歐洲中原の風雲に乘じて之を獲得するの機あるべし、伊太利は更にこれよりも

大なる遺憾に遭遇せざるを得ざりき。六月六日大星終に落つ、噫、伊太利の建設者カミロ　カヴールは熱に惱まされたる腦裡に羅馬問題を描きつゝ、囈語尙ほ"Libera chiro in libera Stato,,を叫びつゝ、五十一年の命數盡きて靜に眠を眠むれるなりき。三月二十五日伊太利議會に於てなしたる羅馬遷都論尙ほ國民の耳に新たなるに、彼は已に冷き骸と化したるなり。彼死すと雖も、彼れが名は長へに伊太利國民の胸に生きん。

吾人は玆に長き彼が後半生の歷史を了る。

新著紹介

大鹽平八郎

幸田成友著

阿部秀助

大阪は著者の云へるが如く、天下の臺所なり、而して此臺所に於ける市政の腐敗は今に始まれるにあらず、既に德川時代に存す、當時に於て直接市民に關係して、最も重要なる地位にありしものは東西の町奉行にして、其配下に東面各々三十騎の與力と、東西各々五十人の同心あり、而して此六十騎の與力と百人の同志とは、此地に於ける只一の武士階級として市民の眼に映ずる一團なるを以て、彼等は御無理御尤として其意を迎ふるに汲汲たる結果、與力の如きは其高二百石卽ち八十石の實收なるに不拘、其實二千石位の生活を營めり之れ皆な彼等が自己の權威を恃んで私曲を弄せるに外ならず、加ふるに當時に於ける厚葬の風は寺

院をして有福ならしめ、多くの圓顱をして俗人より遙かに下劣ならしめ、甚しきは色を漁し、肉を喰ひしを以て、町奉行よりも屢々令して彼等の破戒を誡め、學業德行の成就を奬勵せしに不拘、彼等には本寺あり、觸頭ありて、容易に奉行所より手を入れ難く、斯くて僧侶の腐敗は益々甚しく所謂、坊主頭を頭巾に隱して、狹斜の巷に出入し或は裁縫洗濯のためと稱して寺內に婦女子を引入れ、就中、北野のかくし寺の如き其住持は狸を使ひ、美貌の婦人ある際は、それに狸を憑らせ、加持祈禱に托して、其寺內に誘ひ以て淫慾を恣にせしが如きあり、更に當時に於ける富豪の狀態を見るに、彼等の或者は十人兩替となつて三鄕全體の兩替屋を取締り、或者は御用融方と爲つて政府の官金を預り、或者は諸藩藏屋敷の藏元と爲つて其藩の產物卽ち藏物(主として米)の販賣一切を掌り又た或者は掛屋となつて一方には藏物販賣の代金を預り、一方には月々江戶屋敷の入用金を仕送る等、隱然として天下の金櫃を握れり、而して彼等の間に金談ある際には、必ず對手方を馴染の揚屋又は茶屋に招き、酒池肉林の豪奢を極め、之を振舞と稱せり、斯の如きは實に天保前後に於ける大阪市の腐敗せる狀態にして、此狀態に向て革新の空氣を入れんとを務めしものを大鹽平八郎となす。

彼は此腐敗せる狀態を充分觀察し得べき天滿與力の職にあること前後殆んど十五年、其間淸廉潔白敢行邁往公吏としての彼が三大功績は、文政十年より三年を費して落着せし耶蘇敎徒逮捕一件、同十二年三月に於ける奸吏糺彈一件、同十三年三月に於ける破戒僧侶遠島一件にして、彼自身の語を借りて云へば「職は則ち微賤にして、而も言聽かれ計從はる、大政に關り、衞藏を除き、民害を鋤き、僧風を規す、豈に千歲の一遇にあらずや」とあるもの卽ち之れなり、然かも彼れを信任せし町奉行高井山城守は天保元年七月を以て職を辭するに至りしかば、彼れも亦た之れと進退を共にし隱居して其家督を養子格之助に讓り、「昨夜閑窓夢始醒、今朝心地似二僊家一、誰知未了之三素交者一、秋蕪